

令和2年度 年間指導計画を見直す際の参考資料

小学校 第6学年 「音楽（教育芸術社）」	<small>(歌)…歌唱教材 (器)…器楽教材 (鑑)…鑑賞教材 (創)…音楽づくり (共通)…共通教材</small>
新型コロナウイルス感染防止のための配慮として、学校再開当初は、歌唱や器楽の指導を避け、鑑賞や音楽づくりの学習から開始できるよう、題材の順番を入れ替えてあります。学校の実情に応じて、ここに示された方法以外にも、柔軟な入れ替えができます。(週数は目安です。歌唱や器楽の実施については注意事項を参照してください。)	「鑑賞」や「音楽づくり」の題材を示しています
	本学年で扱う「共通教材」を示しています

35時間（70%）

週	指導事項	題材名	教材名	時間数	留意点
1	音楽づくり—ア、イ、ウ (器楽—ア、イ、ウ) (歌唱—ア、イ、ウ)	2. いろいろな音色を感じ取ろう	(鑑)木星	6	○器楽指導は後半の題材と合わせて行う。 ○鑑賞では動画やDVD等を活用し、児童に気づかせたいポイントを明確にして指導の工夫を行う。 ○曲全体を通して鑑賞する時間を確保する。 ○音楽づくりでは、必要に応じてワークシート等を工夫することで、創作活動をしやすいようにする。
2			(器)ラバースコンチェルト→後半へ		
3			(創)ボイスアンサンブル		
4					
5	鑑賞—ア、イ (歌唱—ア、イ、ウ)	7. 日本や世界の音楽に親しもう	(共通)越天楽今様	3	○共通教材については入替えを行わず、心の中で歌うなど、声を出さない指導の工夫をする。 ○鑑賞では動画やDVD等を活用し、児童に気づかせたいポイントを明確にして指導の工夫を行う。 ○曲全体を通して鑑賞する時間を確保する。
6			(鑑)雅楽「越天楽」		
			(鑑)世界の国々の音楽		
7	音楽づくり—ア、イ、ウ (器楽—ア、イ、ウ) (歌唱—ア、イ、ウ)	4. いろいろな和音の響きを感じ取ろう	(歌)星の世界→後半へ	5	○歌唱と器楽は後半の題材と合わせて行う。 ○音楽づくりでは、必要に応じてワークシート等を工夫することで、創作活動をしやすいようにする。
8			(器)雨のうた→後半へ		
9			(創)和音の音で旋律づくり		
10	鑑賞—ア、イ (器楽—ア、イ、ウ) (歌唱—ア、イ、ウ)	5. 曲想の変化を感じ取ろう	(歌)思い出のメロディー→後半へ	5	○歌唱や器楽は後半の題材と合わせて行う。 ○鑑賞では動画やDVD等を活用し、児童に気づかせたいポイントを明確にして指導の工夫を行う。 ○曲全体を通して鑑賞する時間を確保する。
11			(鑑)ハンガリー舞曲第5番		
12			(器)風を切って→後半へ		
13					
14	鑑賞—ア、イ (歌唱—ア、イ、ウ)	6. 詩と音楽の関わりを味わおう	(鑑)(歌)花・箱根八里/荒城の月→後半へ	3	○鑑賞では動画やDVD等を活用し、児童に気づかせたいポイントを明確にして指導の工夫を行う。 ○共通教材については入替えを行わず、心の中で歌うなど、声を出さない指導の工夫をする。
15			(共通)ふるさと		
16		(巻頭)心をつなぐ歌声	(歌)翼をください	4	○範唱や範奏CD等を活用し、活動を精選して取り組む。
17	歌唱—ア、イ、ウ	1. 和声をひびかせて心をつなげよう	(歌)明日という大空		
			(歌)(器)星空はいつも		
			(共通)おぼろ月夜		
18	歌唱—ア、イ、ウ 器楽—ア、イ、ウ	3. 旋律の特徴を生かして表現しよう	(共通)われは海の子	3	○共通教材については、季節に合わせて時期を変更し、心の中で歌うなど、声を出さない指導の工夫をする。
19	歌唱—ア、イ、ウ	8. 音楽で思いを伝えよう	(歌)きっと届ける	4	○範唱CD等を活用し、活動を精選して取り組む。
20			(歌)さよなら友よ		
			(歌)あおげばとうし		
21	歌唱—ア、イ、ウ 器楽—ア、イ、ウ	(巻末)歌いつごう 日本の歌 (巻末)みんなで楽しく	夏は来ぬ/浜千鳥 Wish～夢を信じて 旅立ちの日に あすという日が 他	2	○学校の実態に応じて教材を選択して指導を行う。 ○CD等の範唱に合わせて歌ったり演奏したりする。

* 国歌「君が代」の指導については、儀式や行事等の指導の中で、各校の実態に応じて学習内容や扱い時数を設定します。

* 留意点の欄にある「変更なし」については、年間指導計画作成例に示されている時数と変更がないため、指導計画と同様の指導ができるものとします。

※注意事項※

通常の歌唱指導については、新型コロナウイルスの感染拡大の状況をみながら、教室でマスクを外せる状況になった段階で実施を考えます。器楽指導（リコーダーや鍵盤ハーモニカ等を使用する場合）も同様とします。

歌唱指導を行える状況になった際は、教室を十分に換気をした上で、CD等の範唱を聴きながら心の中で歌うことや口ずさむことを取り入れたり、範唱を聴いて曲の雰囲気や旋律等を味わったり、声の大きさや出し方に注意しながら体の向きを変えて歌ったりするなどの活動を取り入れることも考えます。

また、器楽指導では、衛生管理に注意するとともに、おもに打楽器や鍵盤楽器、箏などの弦楽器等を扱います。共用の楽器を扱う際は、楽器に番号をつけて使用した児童が限定できるようにするなどの配慮を行います。リコーダーや鍵盤ハーモニカ等を扱える状況になった際は、教室の座席配置を工夫したり、体の向きを変えたり、音を出さずに運指を確認する活動を取り入れたりするなど、学習を工夫することも考えます。

※時間数の精選方法（例）

○題材の目標を明確にし、達成に向けて活動を工夫する。

新型コロナウイルス感染症対策にともなう休校措置を受け、各題材に割り振られる時数がおおむね1～2時間程度削減されています。そのため、各題材で設定する目標を明確にし、その目標を達成するための活動を精選することで対応します。（3時間以上の削減がある場合は、題材の中の曲を選択して扱うことも考えられます。）

・歌唱及び器楽について

CDやDVD等の視聴覚教材を活用し、範唱や範奏に合わせて歌ったり演奏したりすることで、歌唱や器楽指導の簡略化を図ったり、譜読みの時間削減をしたりするなど、歌唱や器楽にあてる指導時間を軽減することができます。場合によっては、歌唱や器楽の演奏について、家庭学習で対応することも考えられます。

・鑑賞について

CDやDVD等の動画や視聴覚教材を活用する際は、視聴させたい部分を取り出して鑑賞できるように工夫したり鑑賞する視点を焦点化したりすることで、鑑賞の指導時間を軽減することができます。なお、曲の全体を通して鑑賞する機会を確保できるよう、時間の配分に配慮することも考えられます。

・音楽づくりについて

音楽づくりでは、教科書の図やワークシートを活用し、短時間で音楽づくりの活動が行えるようにしたり、一部の活動を家庭学習で取り組めるようにしたりすることもできます。なお、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、音に出して確かめたり表したいイメージと音を関わらせたりする活動を、状況に応じて取り入れていくことも考えられます。

なお、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、協働的な活動を取り入れることも考えられます。

（参考：令和2年5月1日付文部科学省通知）

新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫について感染のリスクが高いと考えられる活動の取り扱いについて、「感染拡大防止の観点からリスクの高い学習活動を行わないこと」に、音楽科の学習活動として「音楽科における狭い空間や密閉状態での歌唱指導や身体の接触を伴う活動」が取り上げられました。